

養鶏産業で成功するために

株式会社アスコ 附属研究所
顧問 船橋 史憲

養鶏場が良い成績を得るには昔から言い尽くされていることに良い雛、良い餌、良い管理があります。良い雛とはといってもなかなか難しいが、まず体重が34g以下の小さな雛がないこと、農場到着時の雛が脱水状態でないこと、臍がしまっていることなどの選別と輸送が的確であるかどうかはその後の育成に大きく関与してきます。また種鶏由来の病気保有の有無は最大の関心事です。最近では育成場で投与する生ワクチンの効果を考えると雛が持ってくる移行抗体の高低もワクチンプログラムを組むのに大変重要であり、特にNDとIBDの1回目のワクチンを投与するタイミングを決めるのに必要です。

種鶏または孵卵器汚染のサルモネラ保有雛は最悪です。安全なそして良い成績を得るにはこれらの情報を前もって知ることが大切でしょう。また卵の販売先の希望にあわせ、卵の色やサイズ別生産量によっても鶏種を選ぶべきです。鶏舎のケージサイズによっても相性の良さがあります。強制換羽に不向きな鶏もいます。騒がしい鶏種は解放鶏舎での飼育は向かないし、デビーク(ピークトリミング)の必要性も高まります。

さてこれらの条件が整っているように見えていて問題なのは雛を購入しようとする農場と孵卵場の規模です。この大小によっては、種卵の寄せ集めによる種卵の大小、抗体保有状態の差が大きいとか、種卵を長く貯卵せねばならないとかと何かと難しいのです。よって取引は規模のバランスも大切です。日本の鶏種の現状からいって、あまり選択肢はない状態です。農場が大規模であればあるほどより困難です。

ある人気の高い鶏種の種鶏が特定の病気を持っているまた特定の病気に弱いとか適切な移行抗体(ND IBD CAV AE等)を保有していないなどの場合です。今雛が移行抗体陽性で話題になっているMSIについては産卵への影響についての評価がわかります。

また上記の移行抗体の中でCAVが注目されています。抗体フリーの種鶏が種卵採取中に感染し、雛がCAVウイルスに汚染され、一部が発症した場合、または強く発症しないで、持続感染後性成熟し、CAVウイルスが活発化し、不顕性感染しているMDがいかにも高病原性のMDに感染したような被害が見られます。成鶏型MDの発生の増加と産卵後期での発生が時に大きな被害を出しています。また現場ではILTとPOXの発生がみられています。ILTは本来汚染地域では2度ワクチンを接種することが原則になっていますが、日本では1度だけの農場が多く、中にはスプレーでの投与もあります。このため接種ムラが原因と思われる発生があります。

またPOXの発生はワクモの刺し傷からの感染を疑う事例がかなりあります。またワクモの体内からPCRでPOXウイルスの遺伝子確認の発表もあります。鶏痘予防を成功させるためにはワクモ対策は欠かせません。

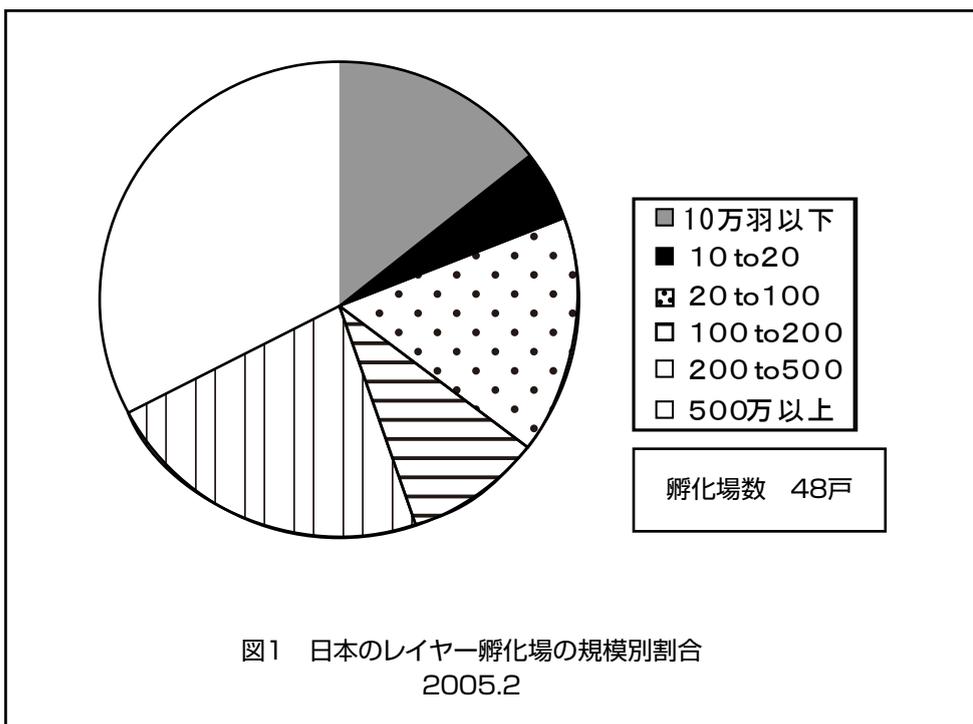
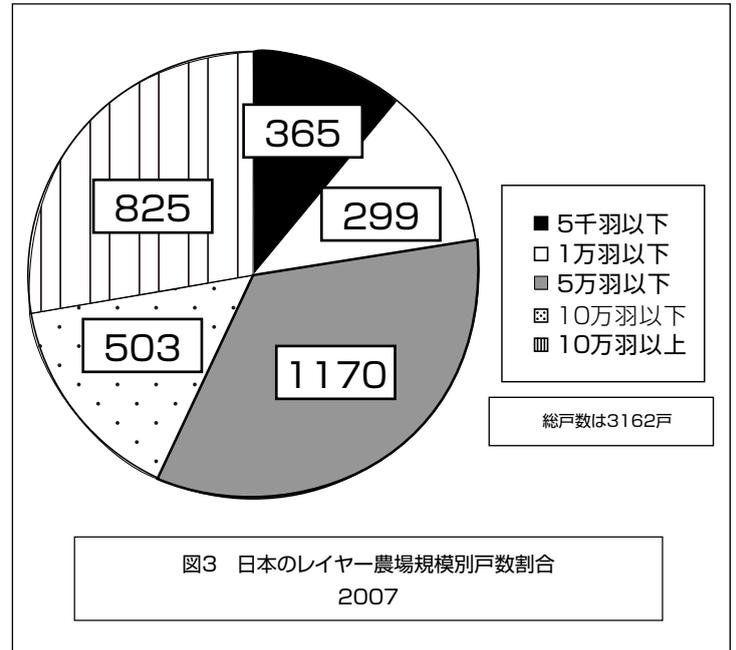
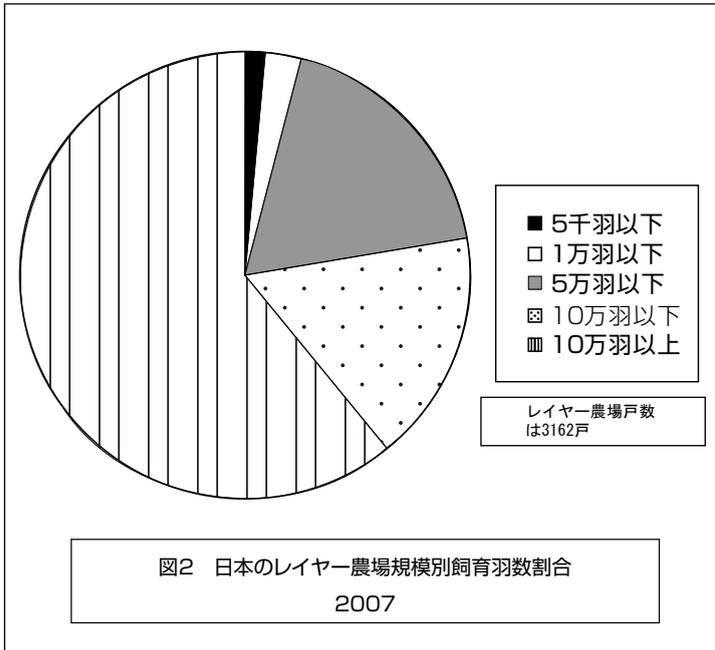


図1 日本のレイヤー孵化場の規模別割合
2005.2



日生研の鶏用ワクチン

日生研 鶏 **コクシ** 弱毒3価生ワクチン (TAM)

日生研 鶏 **コクシ** 弱毒生ワクチン (Neca)

日生研 **C-78** ・IB生ワクチン

日生研 **MI** ・IB生ワクチン

日生研 **NB** 生ワクチン

日生研 **NB** 不活化オイルワクチン

日生研 **NBBAC** 不活化ワクチン

日生研 **ニューカッスル** 生ワクチンS

日生研 **EDS** 不活化ワクチン

日生研 **EDS** 不活化オイルワクチン

日生研 **ILT** 生ワクチン

日生研 **コリーザ** 2価ワクチン N

日生研 **ACM** 不活化ワクチン

日生研 穿刺用 **鶏痘** ワクチン

日生研 乾燥 **鶏痘** ワクチン

AE 乾燥生ワクチン

日生研 **IBD** 生ワクチン

日生研 **MG** 不活化ワクチン N

日生研 **MG** オイルワクチン

日生研 **MG** オイルワクチンWO

日生研株式会社 <http://www.jp-nisseiken.com/>

〒198-0024 東京都青梅市新町 9-2221-1 ☎ **0120-31-5972**